

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071300630		
法人名	社会福祉法人 愛光園		
事業所名	愛光園 第2グループホーム(愛)		
所在地	和歌山県伊都郡かつらぎ町佐野 1386		
自己評価作成日	平成30年1月6日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんの個性を尊重し自由に過せる時間を大切にしています。又家事等出来る事を行って頂いています。殆どの利用者さんの主治医が認知症専門医なので薬は適切に調節してもらっています。同法人内に特養あり随時連携を取っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3071300630-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3071300630-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成30年2月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲に田園風景が広がる地域に立地している。内部は木材をふんだんに使った温もりのある空間となっている。居室の入口は玄関をイメージさせる和風の格子戸になっていて、広い室内にトイレの設備や収納スペースが設けられている。利用者スタッフの関係が家族的であり、利用者間にも温かい会話が弾み、皆が助け合って生活している雰囲気である。家族や親せきが訪問しやすい日に誕生日を祝う日を決め、ケーキを準備して皆で楽しむことが年間行事として定着している。定期的な体調管理のための訪問看護師の助言を日々のケアに活かしている。また、看護師が医療機関と連携をすることにより体調の変化には早急な対応が実現できている。近隣に系列の医療機関や施設があり、状態や希望に応じて柔軟な対応が可能である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく生き生き」という理念をつくり、目のつくところへ掲示しています。	「その人らしく生き生き」という事業所理念を掲げ、生活のリズムを大切に、利用者が自室に閉じこもりにならないようにタイミングを図って声かけを行い、一人ひとりがその人らしく過ごせるようにかかわっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	簡単な買い物やカフェに行っています。	田畑が広がる地域のため地域住民との交流は少ないが、利用者と一緒に地域のスーパーに買い物に出かけている。同敷地内のデイサービスで地域のボランティアによる催しがあれば参加する機会がもたれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトである職員が認知症サポーター養成講座など開催することもあったが現在は活動できていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回を目標に開催中です。	運営推進会議には、民生委員、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員等が出席している。家族の出席は仕事などの理由により実現していない。	利用者家族の訪問の機会に出席を求めするなどして運営推進会議の日程調整を工夫し、家族目線の意見等も取り入れて運営に反映できることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で相談しています。	事業所の状況を報告し、必要があれば質問や指導を仰ぐなど、行政との関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状では玄関、ベランダなどは施錠してあります。	利用者の行動を細部に渡って観察して危険予測を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。車椅子から突然立ち上がろうとするなど、やむを得ない場合には家族に説明し同意を得て、短時間のみ安全ベルトを使用している。	身体拘束なしに危険を回避する方策をいろいろな角度から検討し、より利用者に負担を掛けない取り組みに期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がおこらないように、職員相互で注意していますが法令については学ぶ機会はありません。		

【事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や一部の職員は研修や資格取得のときに学ぶ機会がありますが、その他の職員は機会がありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に疑問点について尋ね、理解して頂けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族様から意見を聞くようにしています。 出された意見については検討したうえで反映させるようにしています。	信頼関係の構築に努める中で、利用者には日々のかかわりの中で要望を聞き、家族には来訪時にスタッフから声をかけて意見や要望を求め、より良い運営を目指している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や随時、意見を聞きとり反映させるようにしています。	職員意見を検討している。各ユニット管理者で話し合う機会をもって、決められた内容は職員に周知徹底をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	翌月の勤務表作成時に休みや勤務の希望があればできるだけ応えるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修は参加している。外部の研修は徐々に増やして行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は勉強会等研修先で情報交換などしていたが今は勉強会がありません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人や家族様に会い話を聞き情報として役立てています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には十分話し、説明したうえで関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護の中で気づいたことを職員同士での情報交換したり、本人とのコミュニケーションから把握できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できること」、「したいこと」を把握し、一緒にできることはして頂くようにし、自発的な活動をうながしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に発言しやすい雰囲気をつくり、関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会など立ち寄りやすい雰囲気をつくっています。	理美容の定期的な訪問があるが、なじみの散髪屋を希望する利用者にはスタッフが同行送迎する。一人ひとりの誕生日会に家族や兄弟が訪れてホームが用意したケーキで祝うことが恒例になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を考慮し適切に関われる様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホーム、法人で対応できることは行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や訴えから、本人の意向や訴えを把握するようにしています。	日々の会話から意向を汲み取るとともに自宅に居た頃の様子や趣味嗜好を家族や本人から聞いて、好み等を把握する「エコマップ」を作成して、その人らしい生活を支えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様の話を参考にしたり、面会にこられた親類の方などの話から把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	随時、利用者様の状態について話しあい介護者の意見交換のもと状態把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様や本人の希望を反映できるよう情報収集し、職員で話し合い介護計画につなげています。	ミーティングで各利用者の様子をスタッフから聞き、本人や家族の意向を尊重しつつ、連絡ノート等日々の記録を計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンに入力しており、いつでも確認できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設で対応できないことは、他の事業所や医療機関を中心に連携をとっています。		

【事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サービス等は当ホームで完結する事が殆どで地域資源としては医療機関の通院と面会等となっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携をとっている医療機関を中心に他科受診などもおこなっています。	母体の医療機関への通院援助はスタッフがを行い、必要時は往診も可能である。眼科・歯科等の他科受診は家族対応が基本である。系列事業所の訪問看護師が週1回の体調管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護に来て頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ADLや内服薬の諸情報を提供しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアなどについての指針をまとめ、家族様に説明しているが現実的には重度化になると特養に入所となっています。	本人や家族が重度化に応じて系列施設や医療機関を希望するため、開設以来看取りのケースはない。状態の変化を見極め、本人や家族の意向を確認して適切な時期に希望される施設に紹介を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しているが、訓練はできていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火避難訓練は行っているが、地域との協力体制などは築けていません。	年1回避難訓練を実施している。災害通知システムが近く変更され、ワンタッチで消防署に通報が可能になる。行政から緊急時の避難者受け入れ要請があり、今後の検討課題となっている。	地域と協議しながら、物品や食料の備蓄等の準備を進め、緊急時の避難場所として大災害にも備える体制を整え、地域住民の安全に貢献できることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みを出しつつ丁寧な対応をこころがけています。	本人の意向で、自室外で過ごす時間は自分で部屋の施錠をしている人もいる。尊厳を守るなかで親しみを込めた声掛けを行っている。常に職員の声掛けや関わりが相応しいかを管理者と共に確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話のなかで利用者の希望を見つけ、自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決まっているのでその中でその人のペースを大切にしている。どのように過ごすかも本人の希望に出来るだけ沿えるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣類を着れるように援助しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は毎日一緒に食べています。又準備や片付けは毎回、利用者さんの日課となっておりさりげなく支援しています。	系列法人の管理栄養士の献立をベースに、入手可能な食材や利用者の好みを考慮しながらスタッフが中心になり調理を行っている。できる部分や後片付けは利用者が手伝い、スタッフと一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作った献立を参考にしています。目立って水分、食事量が足りない方はチェック表を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声かけや介助により、口腔ケアに努めています。		

【事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく自立できるよう、トイレ誘導などを試み、オムツの使用は最小限にしています。	各居室のトイレで介助を行っている。介助やオムツ交換を行うなかで排泄リズムを把握しながら自立支援に努めている。失敗しない介助を目指し、利用者に合わせたトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分やヨーグルトを摂取し、毎日、体操をして体調を整えている。それでも排便のない方は服薬にて排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間は決まっており、その中で入居者の方の希望にそえるようにしています。	現在は午前中の入浴希望者が多く、希望に沿って週に2～3回入浴できるよう、同姓介助を基本として支援している。失禁した場合等、状況に合わせてシャワー浴等の対応も適宜行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも眠気を訴える利用者さんには居室で昼寝をしてもらっています。又夜間、消灯後でもテレビを観たい方は居室で自由に鑑賞して頂いてから休まれています。夜の不眠の方は安定剤を服用して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に処方箋をファイルしています。服薬カードを作り服薬時に照会しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などをして頂いて生活の張りを持って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望による外出、外泊は家族様の付添があればいつでもできます。	皆で道の駅にも出かける機会を作っている。外食も企画しており、3月にはイチゴ狩りにも出かける予定である。スタッフと一緒に食材の買い物に出かける利用者もいる。	

【事業所名】愛光園 第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできない方が多く、身の回りの物を買いたいときは預かっているお金で買うようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときはいつでもかけれるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度は冬は20℃以上、夏は30℃以下、熱中症指数27℃以下になるように注意しています。音や光その他不快になる事が無い様に気を付けています。	スタッフコーナーやオープンキッチンやリビングと一体化した造りで開放的である。腰をかけることができる畳スペースがある。各所に空気清浄機が設置され、清潔空間が保たれている。自然光が入る大きな窓から眺める田園が季節を感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや和室を設置して自由に使ってもらっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族様に説明し、愛用の品物があれば持ってきてもらうようにしています。	クローゼット内に筆筒や棚が作り付けられ広い収納スペースが用意されている。各居室内にトイレも設置されていて、広々とした室内は有効に活用でき、各自の好みに合わせた位置にベッドなどが配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に名前を貼ったりトイレが分からない方にはトイレの張り紙をして対応しています。家事も出来る事を探して出来るだけ参加出来る様に工夫しています。		